

おひさま通信は、おひさま進歩エネルギー及びグループ会社の実施事業をご紹介する不定期発行冊子です

会社の新たなコンセプト決定！

「まちをつくる。あたらしい 緑のエネルギー」

おひさま進歩エネルギー株式会社は今年3月、新たな会社コンセプトを決定して、パンフレットをリニューアルしました。新たなコンセプトは、「まちをつくる。あたらしい 緑のエネルギー」

◆ コンセプトが決まるまで ◆

昨年の大きな不祥事を克服して、新たな経営体制で再起を図るにあたり、あらためて会社の役割や意義を見つめ直して、全員でコンセプトを考えよう！ということになりました。そのためには、事業を引き継いでいくスタッフとして、みんなが何を目指して、どんな想いで会社をやっていくのか、原点を確かめることから始めました。昨年11月から全スタッフが参加するワークショップを開催して、話し合いを重ねる中で決定しました。

◆ 社内ワークショップ ◆

外部コーディネーターの力もお借りして、社内ワークショップを行い、時には合宿形式で夜遅くまで話し合いました。議論を重ねる中で、「子どもたちに安心して渡せる環境を守るため、温暖化を防止する自然エネルギーを増やしたい」

「地元（飯田・下伊那）が大好きで、地元を元気にするために役立つ自然エネルギーを増やしたい」

「いつまでも安心して暮らせる地域を作るために、そのために役立つエネルギーを増やしたい。」

などスタッフ一人ひとりの熱い気持ちをあらためて確認することができました。



社内ワークショップの様子



新たなパンフレットの表紙

地球温暖化防止のために、自然エネルギーを普及するために仕事をしている。そして、自分たちがやりたいことは「持続可能な地域をつくること」で、そのための手段として、自然エネルギーの普及や省エネルギーに取り組む会社なんだと気が付きました。そんな気づきをまとめて、『まちをつくる。あたらしい 緑のエネルギー』というコンセプトを作りました。

◆ 「緑のエネルギー」とは ◆

- ・ 環境問題を後世に残さない未来志向のエネルギー
 - ・ まちをつくる。地域に役立つエネルギー
 - ・ あなたと一緒に作るエネルギー
- という3つの意味を含んでいます。

新たなコンセプトのもと、自然エネルギー事業を通じて地球温暖化に立ち向かい、地域を元気にするために役立てるよう、一歩ずつ取り組んでまいります。福島原発事故から8年を迎えた2019年3月11日からパンフレット配布を開始して、ホームページ (<http://ohisama-energy.co.jp/>) でも公開しました。新しいパンフレットをぜひご覧ください。

■ 新たな太陽光発電事業、小水力発電事業に向けて

新たな自然エネルギー事業の開発に向けて、ただいま飯田市をはじめ南信州地域で調査を進めています。太陽光発電事業では、飯田市内の福祉施設や近隣地域の遊休地で発電設備の設置を予定しています。5月上旬には、パネル販売業者や地元の電気工事業者に同行してもらい、予定地で現地調査を行いました。今回の調査をもとにパネルの設置規模や割付を決定します。

小水力発電事業では、2018年秋から飯田市内の河川で、長野県の補助金を活用して事業可能性を評価する流量調査や生物調査を実施中です。流量調査とは、河川に水位計を設置して1年間測定することで、季節ごとの流量変化を調べて、その川に適した発電規模を計算します。その他の事業候補地の発掘に向けて、飯田市周辺で複数の検討を行っています。



パネル設置予定地



小水力発電の現地調査



小水力発電の流量調査

■ 藻谷浩介氏講演会「エネルギーの地消地産」

3月11日、飯田自然エネルギー大学公開講座「エネルギーの地消地産～地域にお金がまわる仕組み～」を飯田商工会館で開催しました。日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介さんを迎えて「エネルギーの地消地産」をキーワードに講演いただきました。

冒頭「イメージや空気感に流されず、事実に基づいた“数字”で物事を判断できているか？」という切り口で、日本の高齢化率や輸出入額について様々な統計を紹介しながら、クイズ形式で国内外と地域を取り巻く状況を読み解いていきました。

地域の再生可能エネルギーについて、環境省の資料を基に「飯田市の再生可能エネルギーのポテンシャルは、現在使用しているエネルギー量の半分をまかなえる」との紹介がありました。「地域経済活性化の最終目的は、地域の知名度を上げることで、来店客の多い店を誘致するのでもない」「地域企業が栄えて、地域内で決裁権限をもつ事柄を増やすことが地域の自立につながる」と話して、講演を締めくくりました。

講演後のパネルディスカッションでは（一社）市民エネルギー生駒理事長、長野県、飯田市、飯田まちづくり電力社長が登壇して、地域新電力の電力小売りの動向や、エネルギーの地産地消について議論が交わされました。



<おひさま進歩NEWS >



3月13日、阿智村あふち保育園で環境学習を行いました。地球温暖化や自分たちにできることを分かりやすく、楽しく伝えようと、さんぽちゃんと地球さんが登場する寸劇を行い、子どもたちに大人気でした。



5月11日、飯田自然エネルギー大学第2期生の2年目授業が始まり、学長の諸富徹教授の講義「脱炭素経済に向けて」、千葉恒久弁護士による講義「再エネ事業が地域に調和するために必要な法的スキーム」を行いました。



5月31日、飯田風越高校2年生の地域の課題研究講座で菅沼社長が講義を行いました。地球温暖化が暮らしに及ぼす影響や、自然エネルギー事業が地球温暖化だけでなく地域課題の解決につながることを紹介しました。

飯田まちづくり電力 今年7月、市施設へ 供給開始！

飯田市と「地域エネルギーに関する包括連携協定」を締結

2018年3月、飯田からおひさま発電所が生み出した自然エネルギーを提供する電力小売会社「飯田まちづくり電力株式会社」が、（株）飯田ケーブルテレビ、（株）飯田まちづくりカンパニー、おひさま進歩エネルギー（株）が出資して設立されて、代表取締役として飯田ケーブルテレビ社長の原勉氏が就任しました。11月には経済産業省から小売電気事業者の登録を受けて、小売事業開始に向けて準備を進めてきました。

今年4月1日、飯田市と「地域エネルギーに関する包括連携協定」を締結。7月から市内の小中学校や公民館約50施設（合計3MW）を皮切りに、いよいよ自然エネルギーを活用した電力の販売事業が始まります。

おひさま発電所の電気を購入、供給へ

飯田まちづくり電力は、おひさま進歩エネルギー社が設置してきたおひさま発電所の電気により、当面は調達する電力の約3割を地域の自然エネルギーでまかないます。今後、需給バランスを見ながら割合を高めて、3年後には5割にすることを目指しています。

一般家庭に設置された太陽光発電の固定価格買取制度の買取が11月から終了していく、いわゆる卒FIT電力も適切な価格で買い取っていきます。7月、市との協定に基づき、小中学校など約50施設で供給を開始します。個人のお客様へのサービス開始は、今年9月頃で計画しています。子育て世帯やUIターン者への電気料金の割引プランを準備しています。営業エリアは、主として飯田市及び下伊那地域、長野県内となります。



飯田まちづくり電力の事務所

地産から地消へ。生産者の顔の見える電気を販売

飯田まちづくり電力の会社事務所は、飯田市りんご並木に隣接した再開発エリア内に開設されています。同社の海部岳裕取締役は、次のように語っています。

「これまで、おひさま進歩はエネルギーの地産地消を目指してやって来ました。お陰さまで、発電所の設置に継続して取り組むことができ、『地産』の部分はいくらかの蓄積ができたと思います。まちづくり電力では、こうした地産の電気を地域に供給し、『地消』につなげていきます。

飯田市内で年間に使用される電気は約7億kWhもあります。それにかかる電気代は、おおよそ140億円くらいになるはずですが、そのうちの半分弱くらいは燃料代としてガスや石油の購入に使われているのです。エネルギーの地産地産には、燃料代の一部を地域の自然エネルギーで置き換えるという意味があり、これは今後の人口減少社会においてとても重要なことだと考えています。

また、会社のロゴマークには野菜のイラストを入れました。直売所で地元野菜が売っているのと同じように、生産者の顔の見える電気の販売を目指していきます。皆さま、応援よろしくお祈りします。

飯田まちづくり電力株式会社（代表取締役 原勉）
〒395-0045 長野県飯田市知久町1丁目9番地
MACHIKANテナントビル1階3号室
TEL：0265-53-0130 <http://iiden.co.jp/>

電気の調達

地域の自然エネルギー電源



- 再エネ条例の太陽光発電所
- 小水力
- 家庭太陽光

その他の安価な電源

- 中部電力株式会社
(バックアップ)
- JEPX日本卸電力取引所
(調整電源)

調達

地域で可能な限り電気の調達を行う



電力小売

地域づくりの取組支援や
家庭への貢献策の実施
当社の余剰の利益から、
地域に集約して返す。

販売・供給

地域のエネルギー支出を減らし、お金を地域で回す

電気の供給先



飯田まちづくり電力が行う電力小売事業の基本的なしくみ

■ 太陽光発電施設の草刈り作業 始まりました！

5月の連休を過ぎると、遊休地に設置した太陽光発電所では雑草がすくすく伸び始めて、毎年この時期から発電所の草刈作業がスタートします。

おひさま進歩エネルギーの太陽光発電は、主に公共施設や企業、個人宅の屋根をお借りして設置していますが、地権者から依頼を受けて遊休地に設置した発電所もいくつかあり、地権者が草刈りできない発電所は社員が出向いて実施しています。

5月下旬～6月上旬、飯田市内2カ所の発電所で草刈を行いました。行政や地域と協働で設置した発電所では、市職員と一緒に実施しています。また、長野県北部の大町市には、4カ所で合計1MWの発電施設があり、こちらは地元業者へ依頼して順々に作業を進めていきます。

秋ごろには、草の伸び具合を見ながら2回目の草刈りを行います。草が伸びて発電量に影響が出たり、近隣の迷惑にならないように気をつけながら管理していきます。



飯田山本おひさま広場(飯田市)



松尾清水発電所(飯田市)



松崎発電所(大町市)



おひさま進歩スタッフ紹介

おひさま進歩エネルギー株式会社では、現在13名が働いています。昨年、運営体制を変更したのに伴い、社内の業務分担も見直し、自然エネルギーの電源開発、設備管理、省エネ事業、新電力、システム管理、経理、環境学習に取り組んでいます。スタッフのうち3名は、昨年8月以降に入社しました。また5名は地域外から自然エネルギー事業に取り組むために移住した1ターン者です。

スタッフみんなで力を合わせて、楽しみながら、お互いに成長できるようがんばっています。



おひさまエッセイ

昨年、会社の運営体制を一新することになり、会社を引き継いで1年が経ちました。この間、社員全員で力を合わせて業務に取り組み、予定通りの発電事業を継続しております。

5月下旬、東京日比谷で行われた「グローバルストライキ」に参加しました。この運動の発端は、昨年秋にスウェーデンの高校生グレタさんが始めた学校ストライキです。気候変動対策に大人が真剣に取り組むよう訴える活動で、いま世界の若者たちへ広がっています。東京では参加者の多くが外国人で、日本の若者たちにも関心が広がってほしいと感じました。

また、同じく5月下旬、飯田風越高校国際教養科2年生へ「自然エネルギーで地域と世界の未来を考える」というテーマで、気候変動や自然エネルギー普及について1時間講義する機会がありました。その際、高校生にパリ協定や京都議定書を知っているか尋ねたところ、残念ながら知っている生徒は少なく驚きました。

地球温暖化は、未来を生きる若い世代に過酷な影響を残します。地球温暖化の進行と、それを食い止めるために何ができるのか、情報発信の必要性をあらためて強く意識しました。発電事業とともに、環境学習活動にも力を注いでいきたいと思えます。



東京のグローバルストライキ

おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役 菅沼利和



おひさま進歩エネルギー株式会社

〒395-0027 長野県飯田市馬場町3丁目411番地

TEL 0265-56-3711、FAX 0265-56-3712、メール info@ohisama-energy.co.jp

HP <http://ohisama-energy.co.jp/>